



はんだ山の風



Contents

- P2 臨床研修センターについて 副病院長(教育・研修担当) 阪原 晴海
- P2 新任教授の紹介 小児科教授 緒方 勤
- P3 東日本大震災の医療支援に参加して 医事課 三室 智愛
- P3 東日本大震災被災地支援 救急医学准教授 吉野 篤人
- P4 シリーズ最先端医療「IL28B遺伝子診断によるC型慢性肝炎のインターフェロン治療効果の予測評価」
肝臓内科助教 小林 良正
- P5 病気 ここが知りたい「乳房再建」 形成外科診療助教 鈴木 綾乃
形成外科准教授 深水 秀一
- P5 学生による写真展が開かれました 医事課
- P6 浜松医科大学医学部附属病院外来棟改修工事 総務課
開始の安全祈願が執り行われました。
- P6 感染対策講習会が行われました 医事課
- P6 奇術部によるマジックショーが行われました 医事課
- P7 静岡県西部医療圏における「5大がん地域連携パス」の共有 副病院長 小林 利彦
- P8 交通のご案内



浜松医科大学医学部附属病院 常勤・パート看護師募集

お問い合わせ

- 人事課任用係 TEL.053(435)2117
- 看護部事務室 TEL.053(435)2627

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を養成する。

基本方針

- 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
- 社会・地域医療への貢献
- 良質な医療人の育成
- 高度な医療の追求
- 健全な病院運営の確立

臨床研修センターについて

平成16年度から施行された臨床研修制度では、診療に従事しようとする医師は、大学病院等において2年間臨床研修を受けることが義務化されました。歯科医師に関しても平成17年度より1年以上の研修が義務づけられています。研修医に関する業務を行っているのが臨床研修センターです。センターでは、研修プログラムの策定・管理、マッチング業務、研修説明会の開催および外部の研修説明会への参加、研修医に対する研修サポートならびに専門研修の情報提供などを行っています。

医科に関しては管理型臨床研修病院として研修の場を提供しています。当院の研修プログラムの特徴は、2年間のうちの1年を研修協力病院である一般病院にて研修が可能点です。大学病院ではそれぞれの専門分野に秀でた専門家から最新の診断法、治療法を学ぶことができ、一般病院では日常よく遭遇する疾患を多数経験できます。もちろん2年間を通して大学病院で研修することも可能です。もうひとつの特徴は診療科を自由選択できる期間を十分設けていることです。これにより、将来進む診療科ではないが研修期間中に学んでおき

副病院長(教育・研修担当) 阪原 晴海

たい診療科の研修を受けることも、将来進む診療科に早くから接することも可能となります。

歯科に関しては単独型臨床研修病院であり、1年間大学病院で研修します。

病院内には研修医のためにラウンジを設け、研修医が自由に使えるパソコンを6台設置しています。ここでは診療科から提供された専門図書を自由に閲覧できるようになっています。ラウンジの横には臨床研修センターの事務担当者、専任教員がいる部屋があり、研修医の相談に乗っています。またセンター長、専任教員が参加する研修医連絡会を月1回開催し、研修医へ連絡事項の伝達を行うとともに、研修医からの要望を聞いています。

大学病院には、学生、研修医などの教育、研修を行う使命があります。皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。



新任教授の紹介

小児科教授 緒方 勤

5月16日付けで小児科に赴任した緒方勤です。浜松医大に来るまでは、地域基幹病院で6年間NICUや白血病などを研修し、その後、3年間の英国留学を経て、東京電力病院という小さいのですが研究もできる病院で過ごした後、平成14年から国立成育医療研究センターに勤務しておりました。したがって、大学は新人医師のとき以来で、大学に勤務できることをとても楽しみにしていました。実際に勤務してみますと、大変ではありますが、面白さも感じ、毎日を楽しんでいます。大学周辺ののどかな雰囲気も、もともと徳島県の瀬戸内海の小島で育ちましたので、懐かしくまた嬉しく感じています。

私は、小児内分泌学や臨床・分子遺伝学を主たる専門領域としております。特に、成長障害、性分化・性成熟、先天奇形症候群を主たる対象として、それらを単一遺伝子疾患、多因子疾患、インプリンティング・エピジェネティクス疾患の観点

から研究し、その成果を臨床に還元したいと考えています。今後も個々の患者を丁寧に診察することで、これらのテーマを発展させたいと考えています。

今後の小児科においては、小児科疾患Pediatricsにおける診断・治療の重要性は変わりませんが、これに加えて、小児を取り巻く環境の変化を反映して小児保健Child Healthが重要になってくると思われます。これには、成長や性成熟の境界の異常（低身長、肥満、ミクロペニス、二次性徴発来異常など）、アレルギー疾患の増加、精神保健関連の増加などが含まれますし、広い意味では、低出生体重児の増加と将来の成人病発症増加の可能性も含まれます。この小児保健に関連する問題の予防、診断、治療にも積極的に関わりたいと考えています。

以上、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



東日本大震災の医療支援に参加して

医事課 三室 智愛

文部科学省からの要請を受けて、平成23年3月16日から20日にかけて、福島県で放射線被ばく量のサーベイ（測定）を行ってきました。

本院からは放射線技師1人、看護師2人、事務職員2人の編成で、福島県緊急被ばく医療調整本部兼DMAT福島県調整本部の指示のもと、会津若松市と西郷村で活動しました。

活動を行った3日間で浜医大チームは計225人の方をサーベイしました。当初サーベイの対象と想定していたのは原発周辺地域から避難してきた方でしたが、測定会場の周辺地域に居住している方も多数訪れ、希望者への対応が追いつかない状況でした。

私は受付や記録が主な任務でしたが、それ以上に支援への参加を実感できたのは、結果を聞いて不安そうな顔をしている方に対して、他のメンバーともども一声かけてあげられたときでした。それによって少しでも安堵の色が見えたときはそれ

だけで一つの使命を達成したような感覚を覚えました。

私と与えられた安心は微々たるものでしたが、これから日々復興が進んでいくとともに、被災地から多くの不安が除かれていくことを切に願っています。



東日本大震災被災地支援

救急医学准教授 吉野 篤人

3月18日から4日間石巻市に行かせていただきました（医師1名、看護師2名、事務職1名）。東北大学からの要請を受け石巻赤十字病院で活動しましたが、そこには全国の日赤や大学病院、医師会な



どの救護チームが約25チーム集まっていました。

救護チームは石巻赤十字病院の診療支援と避難所の巡回診療を行っていました。我々浜松医大チームは救護チームにこれらの業務を割り振り、行き先などを指示する統括業務を担当しました。

当時石巻市では300か所以上の避難所に約3万人の人が暮らしていましたが、各避難所の状況は行政も十分把握できていませんでした。したがって巡回診療班は診療を行いながら各避難所の情報収集をして持ち帰ることも重要な業務でした。

石巻赤十字病院の受診者数は発災3日目がピークで、1週間目でも初診の患者の来院がありました。また避難所では食事の配給も1日1回がやっとの状況であり、阪神大震災に比べて回復が遅れておりました。

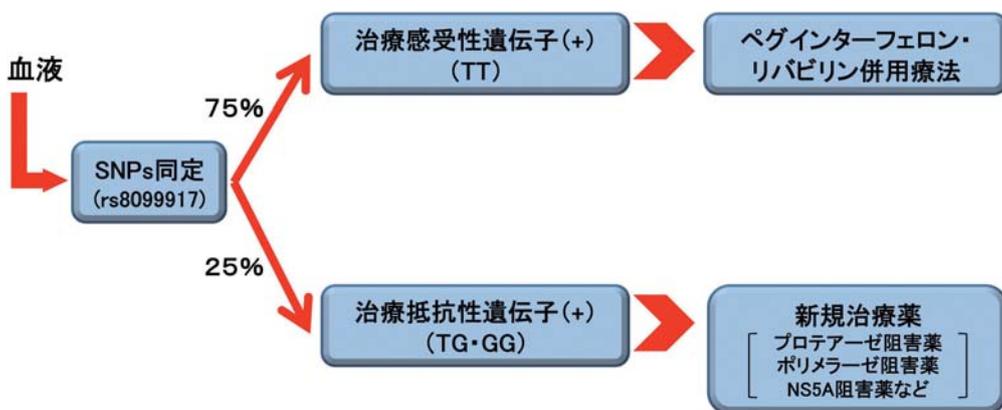


「IL28B遺伝子診断によるC型慢性肝炎のインターフェロン治療効果の予測評価」

肝臓内科助教 小林 良正

本邦では、約200万人のC型肝炎ウイルス（HCV）感染者が存在し、肝細胞がんの背景疾患の約70%を占めています。HCVを排除する標準的治療法としてペグインターフェロン・リバビリン併用療法がありますが、日本人に最も多いC型肝炎のタイプ（HCVの遺伝子型が1型でウイルス量が多い）では約50%の根治しか得られず、約20%は全く効かないという現状があります。また、治療に伴う副作用が強い点も問題視されています。そこで、治療が効きやすいか効きにくい治療前にわかれば、効かない人は無用の苦痛と出費から逃れることができることになります。2009年に日本および欧米からほぼ同時に治療効果予測因子として報告されたIL28Bの遺伝子多型（SNP）は、他に類を見ないほど高い予測的中率を示しました。治療が効きにくいタイプの遺伝子型を持つ場合、持たない場合に比べて危険率約30倍の確率で、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法が無効となること、逆に、治療感受性遺伝子を持つ場合には、治療が有効となる確率は85%であると報告されています。すでに国内の数施設で先進医療としてIL28Bの遺伝子多型が測定されています。臨床検査学講座の前川教授のご尽力の下、当院においても、3月より「IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価」を先進医療として行えるようになりました。当院におけるこの検査の特徴は、採血量が2mLと少なく、1時間以内に測定結果を報告することが可能なことです。当院へ通院中の患者さまは、肝臓内科外来担当医にご相談ください。他の医療機関に通院中の患者さまは、かかりつけ医より当院の地域連携室を通して肝臓内科外来をご予約ください。詳しくは、当院の肝疾患連相談室にお尋ねください。

IL28B領域遺伝子多型(SNPs)に基づくC型慢性肝炎の抗ウイルス療法





「乳房再建」

形成外科診療助教 鈴木 綾乃
形成外科准教授 深水 秀一

形成外科の治療には「再建」と「整容（美容）」という二つの大きな目的があります。「再建」は、熱傷、外傷、手術などで失われた部位の機能や形態の回復を目指した治療で、「整容（美容）」は生活の質を向上させる目的の治療ですが、この二つの目的は切り離して考えるのではなく、形成外科ではむしろ両方のセンスを持って治療しています。

乳房再建は、乳癌で乳房を切除された方が「再建」と「整容（美容）」という2つの目的で手術を受けられる、形成外科としてもっともやりがいのある治療のひとつです。その時期と方法には様々なものがあります。乳癌の手術と同時に行う場合（一次再建）と、乳癌の手術を終えて数か月から数年後に行う二次再建とがあります。また、何を用いて乳房を再建するかで、人工物（シリコンインプラント）と自家組織（自分の皮膚・脂肪・筋

肉などを用いて再建すること）に大別されます。人工物を用いる場合は、予めシリコン製の風船を胸部に入れる手術を行い、風船を3-6か月かけてゆっくりと膨らませてスペースを確保します。2回目の手術で、風船を取り除き、シリコン製の人工乳房をそのスペースに挿入します。自家組織の場合は、自分の背中やお腹の皮膚・脂肪・筋肉を手術によって胸部に移動させて乳房を形づくります。必要な乳房の大きさや下垂の具合、それまでに受けられた他の手術、術後ご出産されるかどうかなど、様々な要素を合わせ考えてどの場所の組織を移動するかを決めます。

いずれの方法にも長所短所があります。人工物は、手術時間が短く身体への負担も少ない反面、感染に弱く、現状は自費診療となります。自家組織による再建は、手術時間が長く、からだの他の部位に傷ができませんが、感染に強く良い質感が得られる利点があります。当院ではどちらの治療法も受けられますが、説明をよく聞いて決めていただくことが重要です。



学生による写真展が開かれました

6月3日（金）～6月10日（金）
病棟2階エレベータエントランスにおいて浜松医科大学写真部による写真展が開催されました。柔らかな照明に照らされた12枚の写真が、病棟を訪れる患者さんやご家族の皆さんを優しく出迎えてくれます。いつも飾られている富士山には少しの間お休みをしてもらい、皆さんに学生の力作を楽しんでいただきました。

医事課



浜松医科大学医学部附属病院外来棟改修工事開始の安全祈願が執り行われました。

5月30日（月）午前11時より、本学多目的ホールにおいて、本学医学部附属病院外来棟改修工事の開始にあたり、中村学長、瀧川病院長ほか関係者ら約50名が出席し、安全祈願の神事が執り行われました。

外来棟改修工事は一期工事、二期工事に分けて実施し、完成は平成25年7月の予定です。

改修期間中、病院正面玄関北側ロータリーの通行禁止、仮設外来棟での診療、騒音等で、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、事故のないよう万全の注意を払い進めてまいりますので、ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

総務課



感染対策講習会が行われました

6月15日（水）全職員を対象とした第1回病院感染対策講習会が行われました。

富士市立中央病院病院長 小野寺昭一先生による講演テーマは「アウトブレイク対策と標準予防策について」でした。

医療関連感染アウトブレイク（集団発生）対策については、適切な感染対策実施のための組織作りをはじめ、アウトブレイク発生時の対応法や解決法に関してお話がありました。標準予防策については、その基本となる手洗い（手指衛生）の重要性や、個人防護具（手袋、マスク等）の適切な使用法などに関して、客観的データを提示しながらお話いただき、感染対策における標準予防策の重要性を参加者全員が再認識しました。

また、最近の薬剤耐性菌に関する話題として、各種耐性菌の概説をはじめ、耐性菌検出時に実施すべき感染対策のポイントや抗菌薬の適正使用について、具体的な事例を交えて分かりやすく説明を受けました。

当日は医師、看護師等300名以上が出席し、院内感染への関心の高さが伺われました。

医事課



奇術部によるマジックショーが行われました



6月22日（水）多目的ホールにおいて医科大学奇術部によるマジックショーが行われました。このマジックショーは毎年行われており、今回もオープニングに続きハンカチ、マジックバッグ、ロープ、3つの予言とたくさんのマジックを披露してくれました。マジックバッグでは、ハンカチや花などが、次々と小さなバッグから出てきます。また3つの予言では「黒い帽子とサングラス」というあやしい雰囲気のみスターXが登場し、3人のお客さんの好きな〇〇を予言しました。会場には、入院患者さんやお見舞いのご家族などがたくさん訪れ、用意した椅子が足りなくなるほどでした。盛況のうちにマジックショーは終了し、学生の演技にたくさんの拍手が注がれました。奇術部の皆さんありがとうございました。

医事課

静岡県西部医療圏における「5大がん地域連携パス」の共有

副病院長(運営・管理担当) 小林 利彦

静岡県には8つの二次医療圏があり、その一つである西部医療圏には「がん診療連携拠点病院」が4施設（浜松医科大学医学部附属病院、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松医療センター）あります。一医療圏に複数の拠点病院が存在する意義として、地域のがん診療における役割（機能）分担が求められるとともに、治療方針の標準化や各種診療書式の共有などが期待されます。特に、がん対策推進基本計画等に基づき、2011年度末までに二次医療圏レベルでの「5大がん地域連携パス」の作成・整備が必要とされています。

当院を含む西部医療圏の4病院は、本地域に従前あった「静岡県西部広域連携パス委員会（大腿骨近位部骨折部会、脳卒中部会）」に「がん部会」を加える形で、その対策を考えることにしました。具体的には胃がん（浜松医療センター）、大腸がん（聖隷浜松病院）、肝臓がん（浜松医科大学医学部附属病院）、肺がん（聖隷三方原病院）、乳がん（聖隷浜松病院）と、各病院の代表医師に担当がん領域を依頼することで、西部医療圏として統一したパス書式を完成させました（図）。その際、患者さんにも優しいツールを提供したいと考え、お薬手帳のようなシンプルな形式と治療後の注意事項等を多く盛り込むことに心がけました。

地域連携パスの適応として、まずは、再発等の可能性が少ない早期のがんを対象としました。その理由として、これまでも病院と開業医との患者紹介・逆紹介はありましたが、やや複雑な診療が絡むと開業医の先生方には頼めない（病院で診た方が安心？）という思いが病院側にあったことや、長期的に病院だけでフォローすると患者さんの病院離れが難しくなることがあり、その種の認識を払拭することをまずは考えての対応です。また、今回の地域連携パスが病院サイドからの一方的な手順書（指示書）とならないように、医師会の専門領域の先生方にも内容の監修をお願いしました。

他の都道府県では、県内統一パスや、より複雑ながん診療の地域連携パスが動いているところもありますが、東西に長い静岡県では、まずは東中西3地域ぐらいで地域連携パス書式の共有を図るのが現実的と考えています。また、地域ごとに開業医の先生方の知識や診療スタイルには温度差があり、複雑なパスにすると、ごく一部の地域・グループでの運用に終わることも危惧されます。今回、地域連携パスという概念を多くの医療関係者に知っていただき、地域における医療・診療のレベルアップに向けた勉強会等が、これまで以上に開催されていくことを期待しています。



外来診療日一覧

H 23.7.1 現在

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
内科 435-2632												
総合内科 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
第一内科 (消化器内科)	○	○	○	※○	○	○	○	○	※○	○		※午後診察のみ
(腎臓内科)	○	○	○		○	○	○	○		○		
(神経内科)	○	※○	○	○	○	○	※○	○		○		※午前診察のみ
第二内科 (肝臓内科)	○	○		○	※○	○	○		○	※○		※予約のみ
(呼吸器内科)	○	○		○	○	○	○		○	○		
(内分泌・代謝内科)	○	○		○	○	○	○		○	○		
第三内科 (血液内科)	○	※○	○	○	○	○	※○	○	○	○		※午後診察のみ
(免疫・リウマチ内科)	○		○	○	※○	○		○	○	※○		※午前は予約のみ
臨床薬理内科	※○			※○		※○			※○			※予約のみ
循環器内科	○		※○	○	○	○		※○	○	○		※午後診察のみ
ペースメーカー外来								※○				※午後 (3ヶ月毎予約のみ)
ピロリ菌外来 (自費診療)	※○					※○						※予約のみ
精神科神経科 435-2635												
(初診・再診)	○	○	○	○	○		○	○	○	○		
(森田療法)								※○				※午後診察のみ
(児童思春期)							○		○			
(摂食障害外来)								※○				※午後診察のみ
(認知療法外来)									○			
小児科 435-2638												
(初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
(新生児フォローアップ)							※1○		※2○			※1 午後診察のみ ※2 不定期
(乳児検診)	※○					※○						※午後 (予約のみ)
(内分泌)	※1○	※1○		※1○	※1○	※2○	○		※1○	○		※1 は午前診察のみ ※2 は15時から
(心臓)		※1○		※2○	※2○		※1○		※2○	※2○		※1 午前診察のみ ※2 午後予約のみ
(血液)									※1○	※2○		※1 午後診察のみ ※2 第2・3・4 週午後診察のみ
(アレルギー)						※1○			※2○			※1 午前・15時から (予約のみ) ※2 予約のみ
(神経)				※○	※2○		※1○		○	※2○		※1 予約のみ ※2 午後は予約のみ ※は午前のみ
(腎臓)				※○	※○				※○	※○		※午後診察のみ
第一外科 435-2641												
(呼吸器)			○		※○			○		※○		※午前診察のみ
(小児)		※○					※○					※午後診察のみ
(消化器・内視鏡)	○		○		○	○		○		○		
(乳腺)	○	○			○	○	○			○		
心臓血管外科 (初診・再診)	○		○		※○	○		○		※○		※予約のみ
第二外科 435-2642												
(初診・再診)	○	○	○		○	○	○	○		○		
(腸管)	○					○						
(食道・胃)			○					○				
(肝・胆・膵・門脈)					○					○		
(血管)		○					○					
(緩和ケア外来)				○					○			
光学医療診療部			○					○				
整形外科 435-2647												
(初診・再診)	○		○	※○	○	○		○	※○	○		※午前予約のみ
(教授外来、脊椎)	○			※○		○			※○			※午前予約のみ
専門外来 (骨粗鬆症)				※○					※○			※午前診察のみ
(リウマチ)			※1○	※2○				※1○	※2○			※1 午後診察のみ ※2 午前診察のみ
(手・末梢神経)			※○					※○				※午前診察のみ
(脊椎)	※○					※○						※午前診察のみ
(腫瘍)			※○					※○				※午後診察のみ
(股関節)					※○					※○		※午前診察のみ
(肩関節)					※○					※○		※午後診察のみ
(膝関節)					※○					※○		※午後診察のみ
(小児整形)	※○					※○						※午後診察のみ

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
脳神経外科 435-2644 (初診・再診)	○	○		○	○		○		○	○		
皮膚科 435-2650 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(乾癬外来)	○					○						
(アトピー外来)					○						○	
(光線過敏症外来)		※○					※○					※奇数月第4週のみ
(脱毛症外来)	○					○						
泌尿器科 435-2653 (初診・再診)	○	○	○	○			○	○	○			
(腎移植外来)			※○	○				※○	○			※第1・3・5週のみ
(結石外来)		○		○			○		○			
(排尿障害外来)		※○					※○					※午前診察のみ
(不妊症外来)	※1○				※2○	※1○				※2○		※1午後診察(第2週は休診)のみ ※2午後予約のみ
(前立腺密封小線源外来)		※○					※○					※午前診察のみ
眼科 435-2656 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
専門外来 (網膜変性外来)						※○						※第4週午後のみ
(小児・弱視斜視外来)								※○				※午後予約のみ
(ロービジョン)										※○		※午後予約のみ
耳鼻咽喉科 435-2659 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
特殊外来 (腫瘍外来)	○					○						
(耳外来)				○					○			
(めまい外来)				○					○			
(耳鳴外来)		○					○					
(難聴外来・人工内耳外来)		○					○					
(睡眠時無呼吸・顔面神経外来)					○					○		
(鼻副鼻腔・アレルギー外来)				○					○			
産科婦人科 435-2662												女性医師ご希望の方はお申し出ください
(初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(婦人科外来)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(産科外来)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(腹腔鏡外来)		※○					※○					※午後予約のみ
(不妊外来)	※○	※○		※○	※○	※○	※○		※○	※○		※午後診察のみ
(光療法外来)			※○					※○				※午後予約のみ
(母親学級)							※○					※予約制
(女性漢方外来)	※○					※○						※第2・4週予約制
放射線科 435-2665 (放射線治療外来)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		午前のみ
(血管内治療外来)		○		○			○		○			午前のみ
麻酔科蘇生科 435-2668 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		午前のみ
リハビリテーション科 435-2747 (初診・再診)		○	○	○			○	○	○			
形成外科 435-2647 (初診・再診)	○	○	○	○		○	○	○	○			T E Lは整形外科と共用 午前診察のみ
歯科口腔外科 435-2673 (初診・再診)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(唇顎口蓋裂外来)			○					○				
(インプラント外来)			○					○				
(顎補綴)			※○					※○				※診察日は外来にお問合わせください

① 診療受付時間

一般外来 午前 8時30分 ~ 午前11時まで
 専門外来
 専門外来 午後 0時30分 ~ 午後 2時まで

② 休診日

土曜日および日曜日
 祝日法による休日
 12月29日~翌年1月3日まで

ご来院の方へ（工事期間中の駐車場のご案内）

病院の耐震工事のため、車で来られた方の乗降場所が変更になりました。

今年中は一般の送迎の方は東玄関にお回りください。

足のご不自由な方は 立体駐車場3階 障がい者用駐車場 をご利用ください。

駐車場については、A・B駐車場がご利用になれます。

ご迷惑をおかけしますが、よろしく申し上げます。



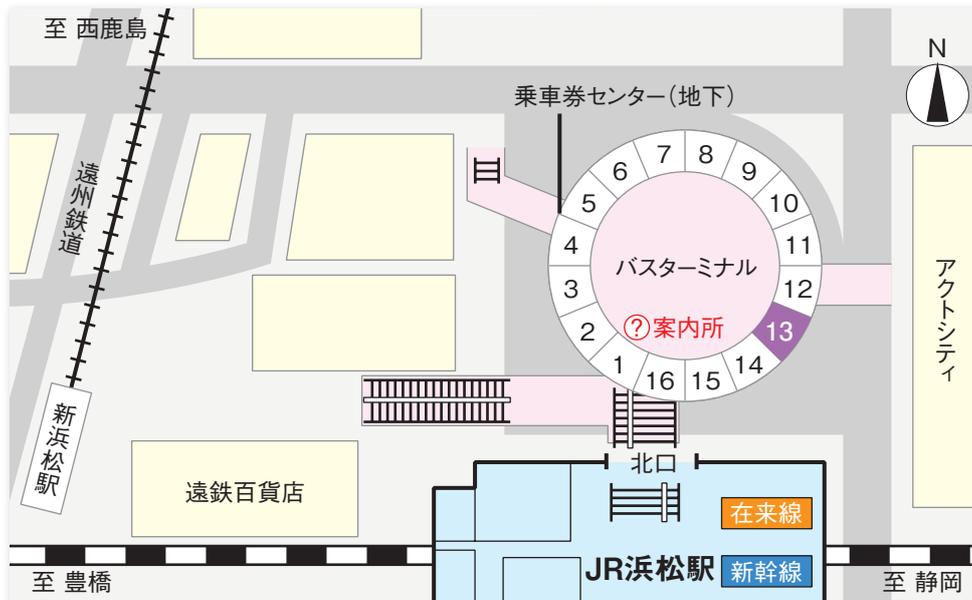
交通のご案内



●バスをご利用の方

バス乗り場	路線番号	路線名称等	所要時間	料金
13番ポール	50	磐田山の手線医大行き	約35分	410円
	57	医大循環(中央署まわり)	約35分	410円

●浜松駅からバスターミナルまで



当院は日本医療機能評価機構認定病院です。

病院広報 **はんだ山の風** 第4号 平成23年7月発行

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会 〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課) Hpアドレス/ <http://www.hama-med.ac.jp/>